

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社アブレイザル
福岡（林） - 12	福岡県	福岡第 2	氏名	不動産鑑定士 佐藤 修

鑑定評価額	1,140,000 円	1 0 a 当たりの価格	26,500 円 / 10a
-------	-------------	--------------	----------------

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 7 年 7 月 1 日	(4)鑑定評価日	令和 7 年 7 月 18 日	(6)路線価	[令和 7 年1月]	円 / m ²
(2)実地調査日	令和 7 年 7 月 2 日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	0.7 倍
					倍率種別	
(3)鑑定評価の条件	当該土地に工作物又は立木等がなく、かつ、使用収益を制約する権利の存しないものとしての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1)基準地	所在及び地番	田川郡添田町大字津野字唐二タ 1 5 0 8 番 5 外					地積 (㎡)		42,900					
	土地の利用の現況	周辺の土地の利用の現況	基準地から搬出地点までの搬出方法	搬出地点の道路の状況	最寄駅及び距離	最寄集落及び距離	公法上の規制							
							都計外 保安林・地森計							
用材林地 (杉・檜)	標高 5 0 0 m、 2 5 ~ 3 0 度の北西向き傾斜で杉・桧の人工林地域	集材機	県道	添田	宮元									
		100m	8.0m	11.5km	2.5km	地域の特性		林業本場林地						
(2)近隣地域	範囲	東 500m、西 500m、南 500m、北 300m												
	標準的規模等	規模 40,000 ㎡程度、形状 不整形、方位・傾斜度 (北西) 向 30 °												
	地域的特性	特記	特にない			道	8 m県道		交通	添田駅 南東方 11.5 km		法令	都計外 保安林・地森計	
		事項				路			施設			規制		
	地域要因の将来予測	地域要因に特段の変動はなく、土地利用は現状維持で推移するものと予測する。林業経営を取り巻く状況は厳しく、地価は下落傾向で推移するものと予測する。												
(3)最有効使用の判定	用材林地					(4)対象基準地の個別的要因	ない							
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格 26,500 円 / 10a												
	控除法	控除後価格 / 円 / 10a												
	収益還元法	収益価格 / 円 / 10a												
(6)市場の特性	同一需給圏は、田川市郡を中心として福岡県内の林地地域に及ぶ。主たる市場参加者は当該地域に地縁を有し林業を営む個人または法人等と想定される。林業従事者の高齢化や後継者不足に加え、燃料費の高騰、輸入材との価格・品質面での競合などから林業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。個々の事情や立地、画地規模等にばらつきが見られ、需要の中心となる価格帯は把握し難い。													
(7)試算価格の調整及び鑑定評価額の決定の理由	宅地化の可能性が乏しいこと及び林業経営に基づく純収益の把握が困難であることから、控除法及び収益還元法の適用は断念した。比準価格は規範性のある取引価格に基づく市場性を反映した実証的な価格であり、その説得力は高い。よって比準価格を標準として、前年基準地価格や林地の需給動向等を勘案し、さらに単価と総額との関連にも留意して、鑑定評価額を上記のとおり決定した。													
(8)公示価格を標準価格	☐ 秤量的検討が可能である ☒ できない													
	標準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準化補正	交通自然宅地化行政その他	地域要因	交通自然宅地化行政その他			
	公示価格 円 / ㎡	[] 100	100 []	100 []	[] 100									
(9)対象基準地価格からの前年の検討	対象基準地の検討			価動 格状 形成 要因 の変	〔一般的要因〕 国産材の需要は増加傾向にあるが、生産者の収益性の低下や後継者不足から、林業経営は厳しい状況が続いている。 〔地域要因〕 この一年間に特段の環境変化は認められない。立木育成目的の取引はわずかであり、林地需要は減退が続いている。 〔個別的要因〕 個別的要因に変動は認められない。									
	■ 前年基準地 □ 新規													
	前年標準価格 27,000 円 / 10a													
	変動率													
	年間 -1.9 %													

(1) 比準価格算定内訳														
NO	取引事例 番号	所在及び地番	取引時 点	類 型	地積 (㎡)	標高・傾斜等	道路、交通施設の 状況	法令上の規制等	地域の 特性					
a	小倉南 07 C (林) - 10801	北九州市小倉南区		森林 の土 地所 有権		標高 20 m 傾斜 度、南東 向 土壌 普通 樹種		「調区」 記載無	都市近 郊林地					
b	田川 07 C - 10411	田川市		森林 の土 地所 有権		標高 160 m 傾斜 15 度、北 向 土壌 普通 樹種		(都) 地域森林計画対象民有林	林業本 場林地					
c	築上 7 C (林) - 10702	築上郡築上町		森林 の土 地所 有権		標高 48 m 傾斜 9 度、南 向 土壌 普通 樹種		(都) 地域森林計画対象民有林	農村林 地					
d	みやこ 7 C (林) - 10201	京都府みやこ町		森林 の土 地所 有権		標高 265 m 傾斜 15 度、南東 向 土壌 普通 樹種		都計外 地域森林計画対象民有林	農村林 地					
e	みやこ 7 C (林) - 10203	京都府みやこ町		森林 の土 地所 有権		標高 420 m 傾斜 15 度、北西 向 土壌 普通 樹種		都計外 保安林	農村林 地					
NO	取引価格 (円 / 10a)	事情補正	時点修正	標準化補 正	推定価格 (円 / 10a)	地域要因 の比較	推定標準価 格 (円 / 10a)	個別的要因の比較		査定価格 (円 / 10a)				
a	() 24,000	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[100.0]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	24,000	$\frac{100}{[90.0]}$	26,667	交通・接近	0.0	26,700				
b	() 39,000	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[98.9]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	38,571	$\frac{100}{[106.0]}$	36,388	自然	0.0					
c	() 20,000	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[99.4]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	19,880	$\frac{100}{[96.0]}$	20,708	宅地化	0.0	36,400				
d	() 25,000	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[99.3]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	24,825	$\frac{100}{[90.0]}$	27,583	行政	0.0	20,700				
e	() 20,000	$\frac{100}{[100.0]}$	$\frac{[99.4]}{100}$	$\frac{100}{[100.0]}$	19,880	$\frac{100}{[90.0]}$	22,089	その他	0.0	27,600				
								[100.0] 100		22,100				
NO	ア事情 の内容	イ月率 変動率	ウ標準化補正の内訳				エ地域要因の比較の内訳							
a	正常	% / 月 0.00	交通・接近	0.0	自然	0.0	宅地化	0.0	交通・接近	-10.0	自然	0.0	宅地化	0.0
			行政	0.0	その他	0.0			行政	0.0	その他	0.0		
b	正常	% / 月 -0.16	交通・接近	0.0	自然	0.0	宅地化	0.0	交通・接近	+6.0	自然	0.0	宅地化	0.0
			行政	0.0	その他	0.0			行政	0.0	その他	0.0		
c	正常	% / 月 -0.08	交通・接近	0.0	自然	0.0	宅地化	0.0	交通・接近	-4.0	自然	0.0	宅地化	0.0
			行政	0.0	その他	0.0			行政	0.0	その他	0.0		
d	正常	% / 月 -0.05	交通・接近	0.0	自然	0.0	宅地化	0.0	交通・接近	-10.0	自然	0.0	宅地化	0.0
			行政	0.0	その他	0.0			行政	0.0	その他	0.0		
e	正常	% / 月 -0.05	交通・接近	0.0	自然	0.0	宅地化	0.0	交通・接近	-10.0	自然	0.0	宅地化	0.0
			行政	0.0	その他	0.0			行政	0.0	その他	0.0		
オ比準価格決定の理由							〔比準価格： 26,500 円 / 10a〕							

(2)控除後価格算定内訳		■ 控除法が適用できない		理由		宅地化の可能性が乏しい林地地域であるため					
(2)-1転換後・造成後の更地を想定した価格から求めた価格（控除法を適用した控除後価格）											
転換後・造成後の更地を想定した価格（円/㎡）	有効宅地化率を乗じた価格（円/㎡）	造成工事費（円/㎡）	公共公益施設負担金（円/㎡）	投下資本収益 (+) × np (円/㎡) n: 月 p: %	販売費及び一般管理費（円/㎡）	差引額（円/㎡） - (+) + +)					
	(%)										
投下資本収益等控除後の価格 n: 月 p: % (円/㎡)		熟成度修正 r: % m: 年 (円/㎡)		個別的要因の比較		控除後価格 × × × 1,000 (円/10a)					
$\frac{1}{1+np}$:		$\frac{1}{(1+r)^m}$:		$\frac{[]}{100}$							
(2)-2転換後・造成後の更地を想定した価格の判定											
取引事例比較法	NO	取引事例番号	取引価格（円/㎡）	事情補正	時点修正	建付減価の補正	標準化補正	地域要因の比較	推定標準価格（円/㎡）	個別的要因の比較	査定価格（円/㎡）
	a	-		$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		街路 交通・接近	
	b	-		$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		環境 画地 行政 その他	
	c	-		$\frac{100}{[]}$	$\frac{[]}{100}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		$\frac{[]}{100}$	
	NO	事情の内容	月率変動率	標準化補正の内訳				地域要因の比較の内訳			
	a		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境		
				画地	行政	その他	行政	その他			
	b		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境		
				画地	行政	その他	行政	その他			
	c		% / 月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境		
			画地	行政	その他	行政	その他				
比準価格 円/㎡											
同一需給圏内の類似地域にある転換後・造成後の公示価格又は標準価格からの検討	標準地番号又は基準地番号	公示価格又は標準価格(円/㎡)	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	推定標準価格（円/㎡）	個別的要因の比較	規準価格又は比準価格(円/㎡)			
	-		$\frac{[]}{100}$	$\frac{100}{[]}$	$\frac{100}{[]}$		$\frac{[]}{100}$				
	地域要因の比較の内訳			街路	交通・接近	環境	行政	その他			
転換後・造成後の更地を想定した価格				円/㎡							
(2)-3想定開発区域の概況及び想定開発工事の概要											
* 開発区域面積 ㎡ うち既存公共用地面積 ㎡ * 開発形態： * 想定用途モデル： * 開発区域の範囲（基準地を中心として） 東 m、西 m、南 m、北 m * 開発区域の土地の利用状況 田 %、畑 %、森林 %、その他 % * 造成画地数 画地 * 1画地平均面積 ㎡ * 平均盛土高 m * 造成後の公共減歩率（又は非有効部分） % * 既存公共用地率 % * 造成後の減歩率 %				* 擁壁工事の概要 * 道路工事の概要 * 排水工事の概要				* 公園緑地の工事の概要 * 水道工事の概要 引込延長 m * 電気工事の概要 引込延長 m * その他			

(備考)

転換後・造成後の公示価格及び標準価格からの検討の適用が困難な理由

(3)収益価格算定内訳						
(3)-1 A式(宅地等への転換可能性がないか又はほとんどない地域にある基準地の場合)						
収 入		造林費の後価合 計 (円/10a)	差引額 + - (円/10a)	収益還元した価格 $\div [(1+r)^u - 1]$ (円/10a) r: % u: 年	管理費資本 (円/10a)	収益価格 (円/10a)
主 伐 (円/10a)	間伐の後価合計 (円/10a)					
(3)-2 B式(宅地等への転換可能性がある地域にある基準地の場合)						
収入 (円/10a)	純収益率	純収益 (円/10a)	収益価格(A) $\div [(1+r)^u - 1]$ (円/10a) r: % u: 年	転換後・造成後 の更地を想定し た価格 (円/㎡)	有効宅地化率を乗じた 価格 (円/㎡)	造成工事費 (円/㎡)
	$\frac{[]}{100}$				$\frac{[]}{100}$	
付帯費用 $\times \alpha$ (円/㎡)	転用見込時期におけ る素地価格 - - (円/㎡)	転用見込時期以後に得 られる純収益の総和 $\div 1,000$ (円/㎡)	転用見込時期における 価値増分 - (円/㎡)	増分の現在価値 $\times \frac{1}{(1+r)^m} \times 1,000$ (円/10a) m: 年, r: %	収益価格 + (円/10a)	
α :						
(3)-3 A式又はB式を用いた理由若しくは収益還元法を適用しなかった理由		林業経営に基づく生産性、収益性が著しく低下しており、純収益の把握が困難であるため、収益還元法の適用は断念した。				

4 不動産ID

No	所在及び地番	不動産ID
1	田川郡添田町大字津野字唐二タ1508番5	2910000101252-0000
2	田川郡添田町大字津野字唐二タ1508番6	2910000101253-0000
3	田川郡添田町大字津野字唐二タ1508番7	2910000101254-0000
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
備考		